

# 集落支援員だより

第29号

発行者 東和地域集落支援員  
 連絡先 66-2490  
 発行日 令和4年10月26日(水)



## 古き良き

### やさしいかご

#### どこにでもあった日用品

昔から竹かご類は農作業を行う上で、必要不可欠な品でした。大きいものは、「木の葉かご」、「たんがら」、「背負いかご」、「み」、「芋かご」、「ゆる」、「腰」などがあり、それぞれ農家では、用途に応じて今も使われているようです。

以前は、集落に一人べらいは手先の器用な人がいて、かごの修理などをして言はれていたものでした。しかし今では、かごの修理はおろか作る人もほとんどいなくなっているようです。日本の竹文化の今後は先細りとなっていってしまうのではないのでしょうか。また、かご作りは誰にでもできるというような技ではなく、繊細な感性から作り出される技法であり、後世に残しておきたい技の一つでもあります。

#### ていねいな手仕事が評判

戸沢11区の佐久間助治さんは、父親がかご作りをしていたのを近くで見ている、見よう見まねで技を身につけていったそうです。



戸沢11区 篠ヶ作  
佐久間助治さん

今、助治さんが作っているかごは「背負いかご」、「芋かご」、「野菜かご」などで、東和文化センターで行われる老人作品展等に出品すればすべて完売するという人気の品だそうです。一度手に取ってみてはいかがでしょうか。

助治さんも今年傘寿となり、これからは体調を気にしながら無理をせず、使う人が手に馴染むようなかご作りを続けていきたいと言っていました。

## 繋がる健康習慣

平成5年に針道地区のスポーツ好きが集まり、針道グラウンドゴルフ愛好会として、活動が始まりました。

活動の目的は、まず健康づくり、仲間づくり、そしてコミュニケーションの楽しみであります。発足当初は20名ほどで活動をしておりましたが、徐々にグラウンドゴルフの良さ楽しさが地域の方々に浸透して、今では35名ほどの大所帯となり活動しています。また女性の会員が多く、「ぎやかで和やかな練習風景が見られます。」

グラウンドゴルフは個人競技であり、団体競技と違った面白さ良さがあり、各々体力に応じた練習をしているようです。

今、ここ数年は、「コロナ禍で思うような対外試合はできませんが、以前のように多くの大会に参加できる日を待ち望み、練習に励んでいます。」



針道グラウンドゴルフ愛好会代表  
菅野卯喜夫

## 先人の知恵と功績

太田寺坂地区には、かんがい用水の水路堰が2ヶ所あり、水田には欠かせないものとなっています。

その一つの大久保山堰は、先人の知恵と技で作りに上げられ、この地は数百年の間、稔の秋と収穫の喜びを味わってきました。

水の取り入れ口には、進水時の年号と人物名が刻まれた小さな石物が二つ祀られており、一つは「水神様 嘉永4年3月吉日」、もう一つには「伴 助兼」という名が刻まれていました。しかし、長年の風雪にも耐えてきた名入りの石は、残念ながら前回の豪雨で流失してしまいました。今回「伴 助兼」の名石の建て替え、その功績を後世に伝えると共に、今後の農業の継続と水路管理等の安全を祈願した次第です。ちなみに伴助兼という人物は、現太田西谷地区にある住吉城のかつての城主であります。



建て替えた石碑

# もしもの時のために、あなたが望む医療やケアは？

## — 健康についての意識調査結果 —

もしもの時と言ってもなかなか準備はできないものです。人生を楽しく健やかに過ごすためにも、今後の暮らしや活動、医療、ケアについて心づもりをしておくことは大切です。改めて家族や身近な人と話し合ってみてはいかがでしょうか。

令和3年11月に東和老人クラブ連合会主催で、「健康づくり・生きがいづくり講演会」を開催するにあたり、アンケートを取りました。ぜひ参考にしてみてください。

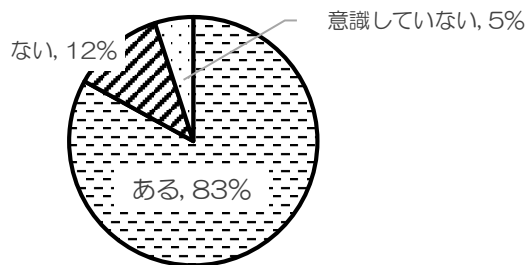
調査主体：(一社)脳神経疾患研究所附属総合南東北病院  
外科医長 緩和ケアチーム 佐藤直 氏

**＜回答者情報＞**

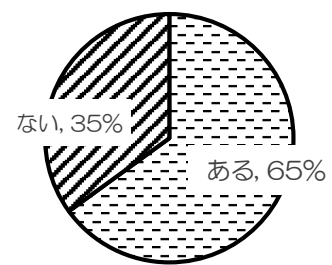
実施時期 : 2021年11月  
対象者 : 50~80代の一般市民(東和管内)  
有効回答数 : 74

### アンケート結果 (一部抜粋)

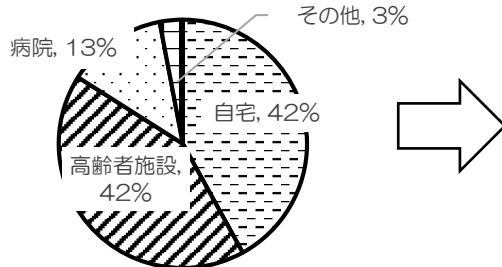
#### ◆自分は認知症ではないかと思ったことは？



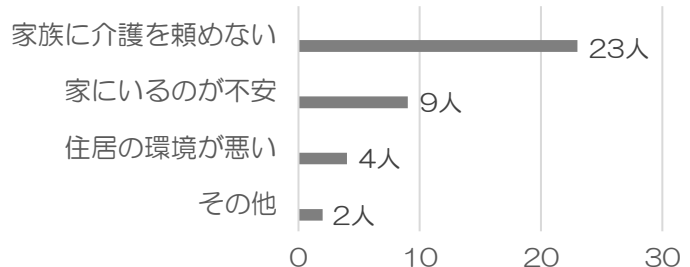
#### ◆家族介護の経験は？



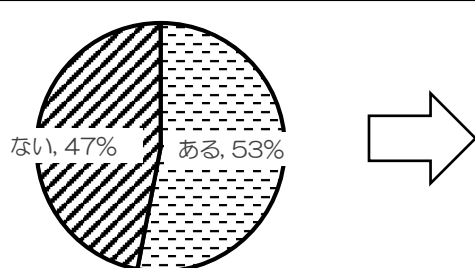
#### ◆最後に過ごしたい場所は？



#### ◆自宅以外で過ごしたい理由



#### ◆もしもの時の話し合いをしたことがありますか？



#### ◆もしもの話し合いをしない理由



#### ◆その他自由記載

- ・一人暮らしになった時の不安がある
- ・未来のことはわかりません
- ・まもなく自分の番かとも
- ・近所で認知症の方もいるので自分がならないかと心配
- ・話しておくことを必要だと思うが、まだ決められない
- ・現在も家族で自分や夫の最後について、どうしてほしいか子供達と話をしている
- ・時間が経てば意向も変わってくるため、家族が集まったときになんとなく会話している
- ・現在、認知症の予防薬はあるのでしょうか

以上文責：佐藤直（総合南東北病院）